

これまでの経緯

R5.7

- ・ 仁多福祉会より八川・馬木両幼児園の統合について打診、庁内検討開始

R6.6

- ・ 仁多福祉会より令和8年度からの統合申し入れ

R6.10

- ・ 町政意見交換会において、地域住民より単なる統合への懸念が示される

R6.12

- ・ 奥出雲町こども計画案で「認定こども園設置等を通じた幼児教育の環境整備」を位置付け
- ・ 仁多福祉会に対して横田地域の幼児園統合に併せて認定こども園への移行方針を説明

R7.1

- ・ 町議会臨時会議員会において方針説明、概ねの賛同をいただく
- ・ 仁多福祉会職員、横田地域幼児園保護者、自治会長へ方針説明会開催

R7.2

- ・ 仁多福祉会理事会・評議員会に対して説明

R7.3

- ・ 奥出雲町こども計画に「認定こども園の設置」を明記
- ・ 仁多福祉会理事会において「認定こども園運営者については町へ一任する」旨の議決併せて横田地域の子育て支援センター、放課後児童クラブも撤退の意向が示される
- ・ 仁多学園理事会において認定こども園開設の方針が示され、概ね了承される
- ・ 町議会3月定例会において認定こども園について提案趣旨説明、関連予算が承認される

R7.4

- ・ 幼保連携型認定こども園講演会開催

R7.6~7

- ・ 子育て意見交換会実施（横田、八川、馬木）

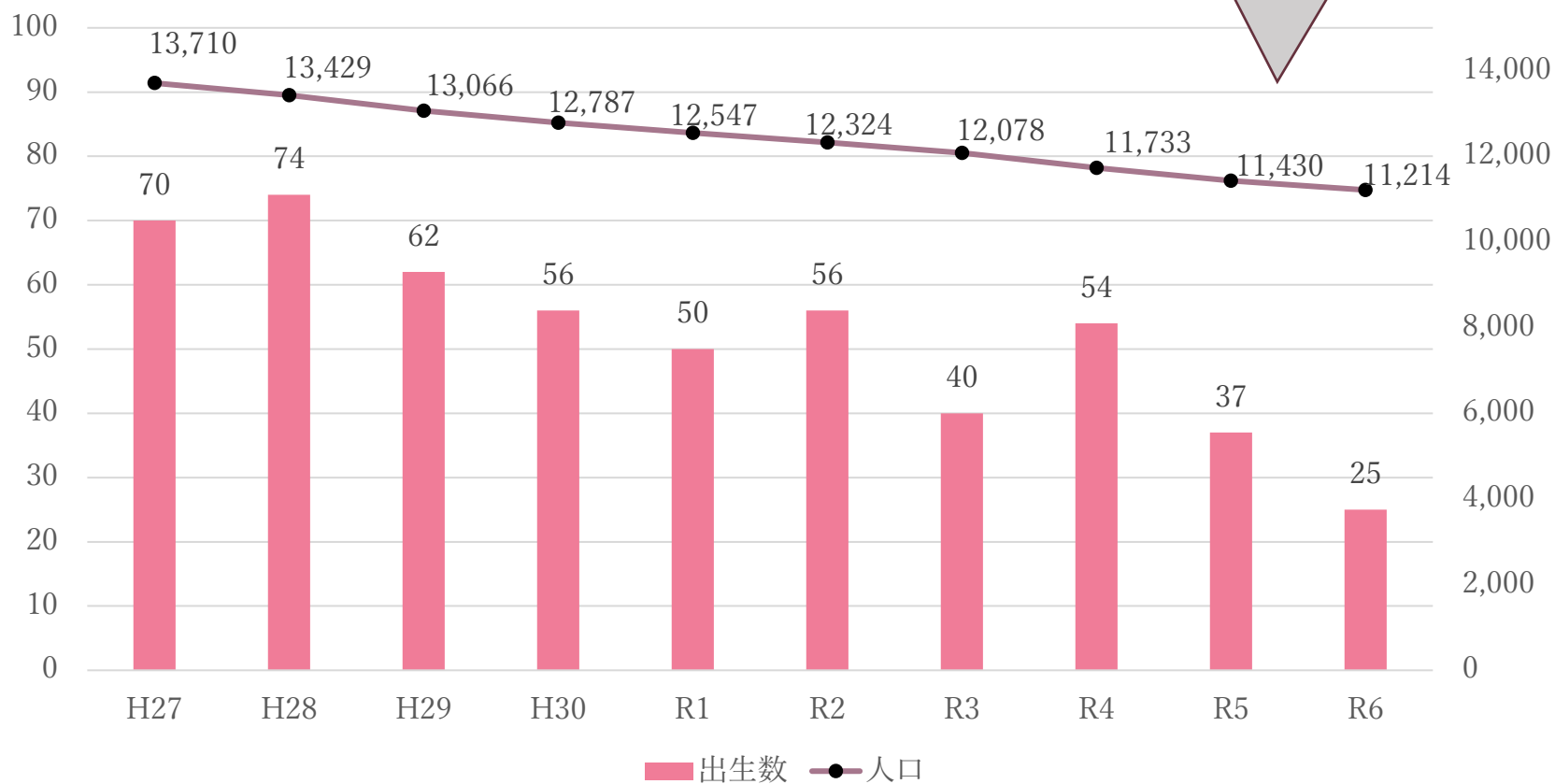
横田地域幼児園統合の背景

各幼児園の園児数（R7.5.1現在）

	布勢	三成	亀嵩	阿井	横田	八川	馬木	合計
0歳		1			3			4
1歳	2	11	6	3	9	2	3	36
2歳	4	19	4	6	19	2	3	57
3歳	4	18	5	5	10		1	43
4歳	5	20	4	5	22	2	4	62
5歳	3	14	7	7	21	2	1	55
合計	18	83	26	26	84	8	12	257

急速な出生数・人口の減少

10年で
人口：2,496人減少
出生数：64%減少



※人口は3月31日時点、出生数は当該年度総数³

保育所（幼稚園）との制度上の違い

幼保連携型認定こども園は、幼稚園と保育所（幼稚園）の長所を併せ持つ施設で、幼稚園が提供するような教育的なプログラムと、保育所が提供するような長時間保育を兼ね備えている。そのため、認定こども園は保護者の就労状況に関わらず就学前の全ての子どもが通うことができる。

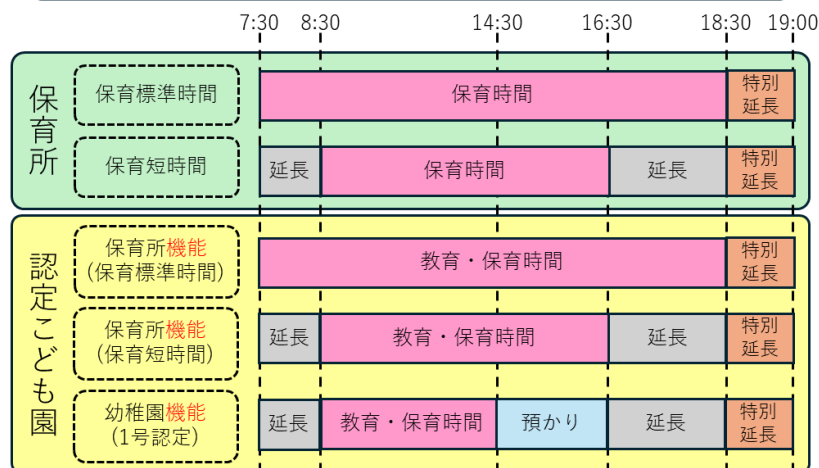
	幼稚園	幼保連携型認定こども園
	「幼稚園」とは、保育所を経営基盤とし、幼稚園教育の良さを保育・教育に活かした奥出雲町独自の呼称の児童福祉施設	学校及び児童福祉施設の双方の位置づけを有する単一の施設
所管省庁	厚生労働省	内閣府
法的位置づけ	児童福祉施設	学校かつ児童福祉施設
対象年齢	0歳～小学校入学まで	0歳～小学校入学まで
認定区分 ※1	2号・3号認定 (※1号認定の利用も可能)	1号・2号・3号認定
教育・保育時間	8時間～11時間	4時間～11時間
保育料 (奥出雲町は無料)	世帯収入に応じて自治体が定めた金額	世帯収入に応じて自治体が定めた金額
保育者資格	保育士 ※2	保育教諭 (幼稚園教諭＋保育士)

- ※1 園を利用する際は、入園申込みの前に、町から認定を受ける必要があります。これを「教育・保育給付認定」といいます。認定区分には、以下の3種類があります。
- ※2 多くの保育士が幼稚園教諭免許状も保有しています。

認定区分	対象となる子ども
1号認定 (満3歳以上)	保護者が「保育を必要とする事由」以外の子ども
2号認定 (満3歳以上)	保護者が「保育を必要とする事由」の子ども
3号認定 (満3歳未満)	

- 幼保連携型認定こども園は家庭の保育環境に関わらず通うことができます。
- 保育を必要とする理由としては、会社等に勤務している・産前産後・保護者の疾病や負傷・同居親族の介護・求職活動・就学等があります。

1日の生活時間の違い（イメージ）



幼保連携型認定こども園導入の背景

人口減少への対応、地域振興

発達支援、幼小接続の仕組み作り

教育体制の充実、人材育成の強化

人口減少への対応、地域振興

UIターン・出生数増加

人口減少へ歯止め

持続可能な
地域へ

町内外の子育て世代の多様なニーズに対応

地域との連携は維持しながら・・・

幼稚園、認定こども園という選択肢

発達支援、幼小接続の仕組み作り

小学校統合

幼稚園統合

少人数教育から
集団教育へ

より細やかな
発達支援の必要性

統合のメリット：幼児期からの一貫した教育

認定こども園

横田小学校

横田中学校

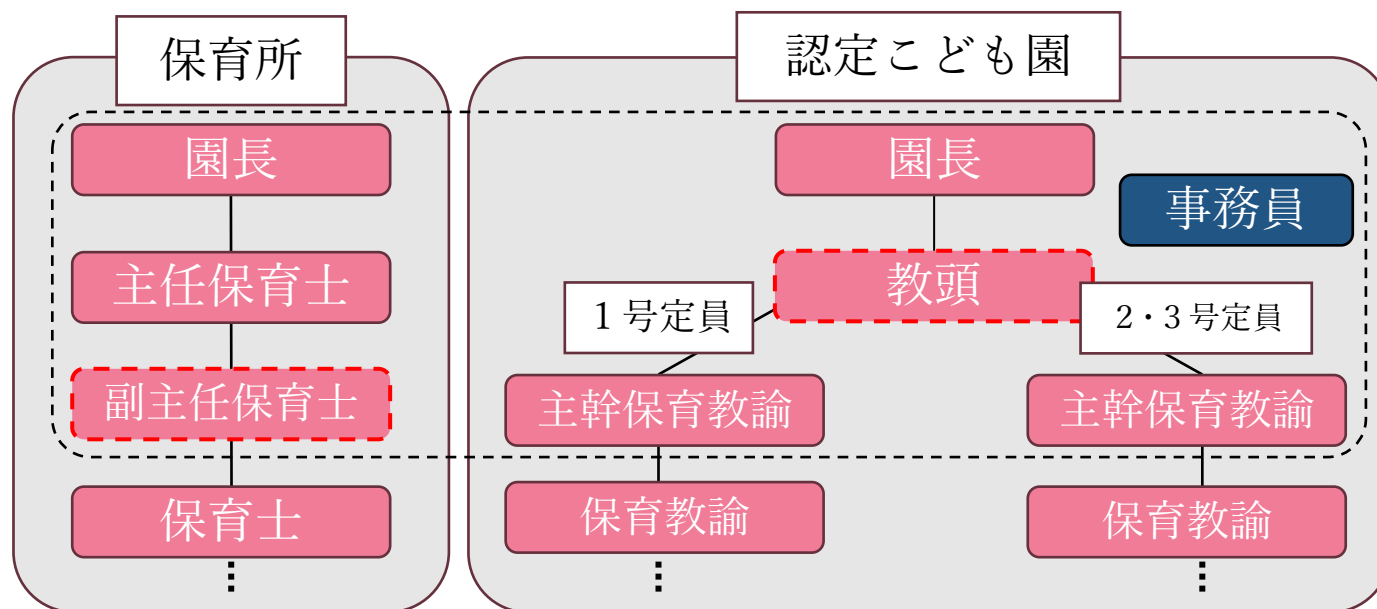
横田高校

幼小接続の
一層の強化

教育基盤の充実

教育体制の充実、人材育成の強化

認定こども園の制度上のメリットとして、園長を補佐しマネジメントを担う教頭の配置だけでなく、公定価格基準上、指導的役割を持つ主幹保育教諭を1号定員、2・3号定員に一人ずつ配置する必要があるため、これまで以上に職員の指導・支援体制を強化でき、**より手厚い教育・保育が可能**となる。また、専任の事務職員も配置可能なため職員が**教育・保育に専念**でき、**保育士の負担軽減**を図れる。



R8想定職員数

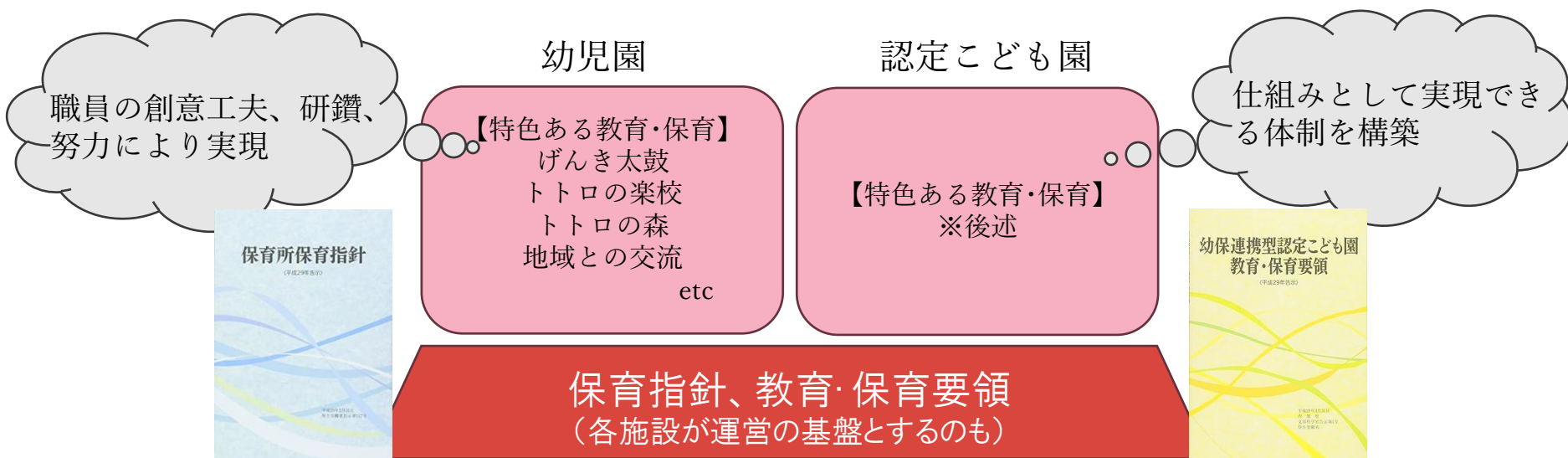
職名	人数
園長	1
教頭	1
主幹保育教諭	2
保育教諭	23
保育助手	1
看護師	1
栄養士	1
調理員	4
事務員	1
	35

非正規職員含む

認定こども園の基本的な考え方

保育所も認定こども園も国が定める指針・要領に基づいて、教育・保育を行うが、両者に大きな違いはなく、いずれも「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」いわゆる10の姿を目指している。

認定こども園ではその10の姿を培うための**手法の一つ**として、地域資源を活用した特色ある教育・保育を展開していく。



教育理念

奥出雲の豊かな環境を活かし
想像力や判断力などの人格形成の
基礎となる資質・能力を養う
(奥出雲町教育大綱より)

教育方針

先進的な理論に基づく教育・保育を提供し、子どもが自分で考え主体的に行動できる力を培う。

地域資源や自然・文化を活かした特色ある教育を通じ、地域への愛着や多様な価値観を涵養し、相手の気持ちを理解し、尊重する心を育む

幼小連携の架け橋カリキュラムにより、小学校へつながるための基礎となる幼児教育を推進する。

子どもの健やかな成長と家庭とのつながりを大切にし、園と家庭が一体となった教育・保育を提供する。

地域とのつながりを大切にし、地域と一体となった子育て支援を展開する。

特色ある教育・保育内容

豊かな自然を生かした自然環境教育

リハビリテーション理論を活かした発達支援

郷土を愛し未来を生き抜く力を育む教育

豊かな自然を生かした自然環境教育

水辺の楽校（現馬木幼児園舎）を活用した自然教育

木の交流施設（現八川幼児園を改修して整備を検討中）を活用し、島根大学教育学部・総合理工学部と連携して、環境学習の発展型としての「木育」

※各施設の管理方法については検討中

ランドスケープ

木の交流施設“じゅじゅもく(仮)”八川幼稚園イメージ



国道314号線沿いの
好立地を活かす。

- ・地域の賑わいづくり
- ・遊休施設の活用
- ・持続可能な地域づくりの推進



- ・遊休施設の活用
- ・持続可能な社会の推進
- ・多世代交流の促進
- ・地域資源の活用
- ・環境保全への啓発
- ・木材の利用推進

リハビリテーション理論を活かした発達支援

島根リハビリテーション学院と連携し、リハビリテーションの理論を取り入れた、発達段階に応じたプログラムやレクリエーションによる発達支援



郷土を愛し未来を生き抜く力を育む教育

奥出雲町の基幹産業である農業やそろばん産業・教育を通じた郷土愛の醸成



島根ITデザインカレッジと連携し、デジタル技術に触れる教育

町内在住の多国籍の方との多文化交流によるグローバル感覚の醸成



よこたこども園の概要

1. 開園時期

令和8年4月

2. 開設者

学校法人仁多学園（島根リハビリテーション学院運営）

3. 園長

奥出雲町の教育に精通された方

4. 職員体制

現在幼児園でお勤めの職員の皆様に、可能な限り引き続き勤務いただけるよう調整中

5. 対象園児

現在横田・八川・馬木幼児園に通園している乳幼児だけでなく、町内にお住いの乳幼児が対象（現在の幼児園も同様）